

都立 第五福竜丸展示館ニュース

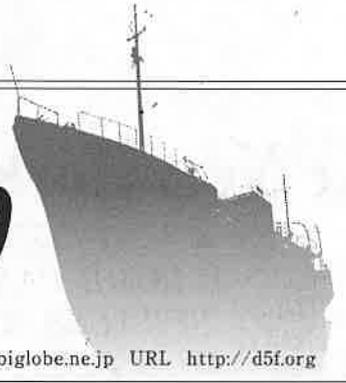
2011.05.01  
No.363

(5・6月号)

# 福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL <http://d5f.org>



「21世紀を平和の世紀に」の八重紅大島桜の満開の下で生徒たちの元気な声がひびく



## ビキニ事件を学び生かす

公益財団法人第五福竜丸平和協会

代表理事 川崎昭一郎

この度の東日本大震災と大津波、それに引続く福島第一原発の損傷と放射能漏れは、当該地域で実に多くの人命を奪い、また甚大な被害をもたらしました。そして現在なお人々に大きな不安を与え続けています。

私ども第五福竜丸平和協会は、犠牲者に哀悼の意を表するとともに、被害を受けられた方々に心からお見舞いを申し上げ、復興に向けて私どもとして物心両面でできる限りの支援の手をさしのべたいと考えます。

私たちは、アメリカの水爆実験で放射能被害を浴びた第五福竜丸乗組員の方々はじめ、食べものの放射能汚染や放射能雨で当時パニック状態におかれた全国の人々が手を携えて「死の灰」とたたかった経験を持っています。

全国における熱意と創意にあふれる活動のひろがり、核爆発実験中止と原水爆禁止の世論を大きく盛り上げました。

第五福竜丸展示館は毎年、東北地域からも多くの学校見学者を迎えておりますが、例年ですと修学旅行で賑わうこの時期に、大震災後は学校関係の見学キャンセルが相次ぎ、さびしい思いをしています。

この機会に改めて公益財団法人としての責任を自覚し、核兵器のない未来をめざし平和の灯をともし続け、社会教育施設として地道な活動を続けてまいりたいと思えます。これからも新しい企画を工夫し提供して行く積りでです。

私たちは第五福竜丸の船体とともに、これからも多くの方が展示館を訪れて下さることをお待ちしております。





読売新聞は1954年1月から30回にわたり原子力を啓蒙する連載「ついに太陽をとらえた」を掲載しており、第五福竜丸の被災が報じられた後も「原子力の平和利用」キャンペーンに力を注いでいる。8月中旬には「原子力展」を新宿伊勢丹で、翌年には「原子力平和利用博覧会」が全国巡回した。

(2めんからつづく)  
キロ幅で二〇〇キロが致死量を浴びた地域となります。  
当時発表されたハマキ状に描かれた汚染地域の図にあたるわけですが、太平洋全体の

汚染レポートをかなり過小に作り直したと思われる。別のページでは、ブラボーだけでなくキャッスル作戦全体の総括が紹介されています。これによると七〇〇〇平方キ

ロの地域は、致死的な汚染をもたらすけれども、事前に避難するかシエルトに隠れていれば大丈夫だというものです。私たちはこれまで、この発表でこの核実験の汚染を捉

えてきたといえます。第五福竜丸をはじめ広範な地域の汚染、それによる被害がもつと大きな広がりをもっていたにもかかわらず、ミスリードされてきたといえるのではないのでしょうか。

**読売新聞**  
一九五四年三月二一日付

たほうがよいということです。  
\* 同様の傾向が読売新聞でも読み取れます。三月二一日夕刊に福竜丸の乗組員の火傷症状の生々しい写真が掲載されていますが、その上には「原子力を平和に」との見出しがあり、乗組員の悲痛な声を紹介しながらも、「いかに欲しくても原子力時代はきている」「われわれも原子力時代に踏み出すときがきたのだ。」と結ばれています。

なぜそのようなことがおこなわれてきたのか。その謎をとくヒントの一つが、同日付の別紙面の記事に「イギリスが一二基の原子力発電を計画している」とあります。  
つまり時代は「原子力の平和利用」の実現化をはかり、それを推進するために、放射能や核爆弾の危険な話は避け読み取れます。

**企画展「ビキニ事件 新聞切抜帖～第五福竜丸の被災と人びとの暮らし」**  
6月1日～8月31日  
第五福竜丸の被災が報じられて以来、乗組員の容体とともに、「原子マグロ」「放射能の雨」、各地での農作物の被害などが連日報道されました。第五福竜丸平和協会の収蔵資料より、全国の地域紙を含む当時の新聞記事から、「ビキニ事件」の市民の暮らしへの影響を俯瞰し、最近公開され収集されている、アメリカの資料とともに、「死の灰」の被害を考える企画展を開催します。(会期中には関連イベント「市民講座」を開催します。)

# にしわきやすし 西脇安さんとビキニ水爆

## 小沼通二

友人と、大阪の西脇安さんをお訪ねしたいと話したばかりなのに、三月二十七日、九四歳で永眠され、機会を失ってしまった。ご冥福をお祈りしたい。

私が初めて西脇さんにお会いしたのは、一九五七年八月九日の第三回原水爆禁止世界大会の科学者会議の席上だった。カナダで開かれた第一回パグウォッシュ会議の直後、日本に直行したJ・ロートブラット（一九九五年ノーベル



ロートブラット報告を通訊する西脇さん（左端、1957年東京、筆者撮影）

平和賞受賞者）の報告「戦時と平和時における放射線の危険性」を通訊したのが、ロートブラットと旧知の西脇さんだった。

第五福竜丸のビキニ水爆実験による被曝が明らかになった一九五四年三月一六日に、大阪市大医学部放射線物理学教室に勤務していた西脇さんは、大阪市役所からの依頼によって大阪中央市場に行き、福竜丸が獲ってきたマグロが強い放射能によって汚染されていることを確認した。重要性を悟った西脇さんは、福竜丸の母港焼津に夜行列車で急行し、放射能を帯びた白い灰を持ち帰った。西脇さんは、有機化学教室の協力を得て、灰の放射性物質を分析し、自身ではネズミを使ってビキニの灰の生物学研究を進めた。生物体内のどこに放射性物質が集まりやすいかが明らかに

3月17日、福竜丸の船体を測定する西脇さん



なり、時間とともに減衰する様子もわかった。大腸菌を使って細菌学研究も進めた。

西脇さんは、七月にキリスト教平和大会への日本代表として英国を訪問した機会に、日本中で行われたビキニの灰の分析についてオクスフォード、ケンブリッジ、ハーウェル原子力研究所などで詳細な講演を行った。これが日本の分析結果が世界に伝わった最初だった。その詳しい内容は、ロートブラットが副会長をしていた英国科学者連盟の機関誌『原子科学者ジャーナル』に「ビキニの灰」という題で掲載されている。その中に、東大でウラン<sup>237</sup>とプルトニウム<sup>239</sup>が見つかっているようだという簡単な紹介がある。

原爆を起爆剤に使用して水素の核融合をさせる水爆で、なぜウラン<sup>237</sup>が大量に出てくるのかは日本でも気にかかっていたが、西脇さんの報告を聞いたロートブラットが、ビキニの水爆の構造を解明した。原爆の核分裂を起爆剤にして水素の核融合反応を起こさせ、さらに大量に存在するウラン<sup>238</sup>の核分裂を起こさせて威力を高めたものだった。この見抜いたのだった。

これは、英国の原子力委員会によっていったん発表を止められたが、彼は英国の哲学者・数学者のB・ラッセルや米国の友人に伝えた。これが元になって、核戦争による人類絶滅の危険性を指摘し、この事態から抜け出す道を探るための科学者会議開催を呼びかけた一九五五年のラッセル・アインシュタイン宣言が生まれ、二年後のカナダのパグウォッシュでの科学者会議が実現した。

この文の最初に述べた西脇さんとロートブラットの再会は、この直後だった。パグウォッシュ会議は一九九五年に、ロートブラットとともに

ノーベル平和賞を受賞した。世界の科学者の核兵器廃絶を目指す運動を生み出したために西脇さんがいたのだった。（慶応大学名誉教授、世界平和アピール七人委員会）

### 二度来館した西脇さん

西脇安さんは、第五福竜丸展示館に二度来られました。

一度目は、ビキニ水爆実験被災五〇周年の二〇〇四年二月二六日夕刻でした。

西脇さんから、大阪市場での第五福竜丸のマグロを検査したこと、強い放射線が検査されたので船体や乗組員のことを調べようと夜行列車で焼津に向かい、三月一七日に船体をベータ線測定器で測ったことなどのお話を伺いました。

二度目は、同年の一二月一〇日で、五年の秋にヨーロッパを回り第五福竜丸の被ばくと灰の分析などについて報告したとお話を伺いました。西脇さんのご冥福をお祈りします。

# 高知のマグロ漁船 乗組員の日記

## 被ばくの実 うかがわせる資料

第五福竜丸被災に端を發した汚染マグロの検査は三月一八日の政府指示により始められ、年末までつづけられた。この検査で汚染魚を水揚げした漁船の記録八五六隻のうち高知県の港に所屬する漁船は二七〇隻と最も多い。

一九八五年以来、同県の核実験に被災した船と乗組員の健康状況などを究明する活動をつづける山下正寿さん（高知県太平洋核実験センター事務局長）が、昨年末、ビキニ水爆実験の時にビキニ環礁付近に向かっていたマグロ船の乗組員から航海時に記載した日記を入手した。

ここには実験の実施にともない第五福竜丸被災後の漁船の間で交わされていた通信

核実験を警戒する様子、帰港してからの検査、その後数年間の操業時の体調不良などの記載がある。

日記の記載者は「第五海福丸」の元操機長・山中武さん。核実験が盛んに行われた時期に、乗組員自身が航海の様態を記載した個人記録はきわめて貴重で、このほど同センターにより資料集がまとめられ刊行された。その一部を紹介する。

### 【日記より抜粋・一部略】

二月二一日（一九五四年）  
浦賀出港：

三月六日 マーシャルへ変針（大丸がマーシャルで大漁）  
七日 E177・2 マーシャルまで四、五日 幸成丸がE176

一四日 E176、N10・5（ビキニ東2千キロ）、二回目操業少し漁アリ。

\*編注・16日 第五福竜丸の被災が報道され全国ニュースに

一九日 この付近、原子病が流行との事。政府より海水持参せよ。アメリカの奴ひどい事をするものだ。

二〇日 無線 N20、E175より沖の漁場は原子のため原

子病あり。我々はこの付近におり、多いに心痛める。本日一〇〇貫余りの漁。

二二日 一〇回目の操業。一生懸命働いても、比の魚が売れるか売れないか、いづれろくな事ではない。アメサンが原子爆弾の実験をやり、付近1,000カイリは放射反応にて原子病に成り、或る船似ては人命を捨てたとの事。

二三日 一回目操業。E175・30 N10・05 今回の無線では、丘では大変なことに成っているそう。比の付近の魚は原子爆弾の反応あり、食った人間が原子病に成ったという事。第一水揚禁止。今だ二週間も売れず、入港地も指定された船があるそうだ。

二六日 水不足なればやむを得ず帰途に着く。原子爆弾の件、病気になるもの米国政府より補助してくれるよう

な。

\*山下注・27日2回目のビキニ核実験

四月七日Pm二時浦賀に入稿したが、すぐ三時東京に廻る。六時東京に入港した。水素爆弾、放射反応があるかないかを厚生省より検査員が来

て調べる。その結果、江口さんのテブクロ一二〇〇、奥村のシャツに七〇〇カウント、自分の作業服に三〇〇カウントあった。其の他の船体は異常なくほつとする。

八日 昨夜一二時から水揚作業。昨夜放射能検査の結果良好。今朝揚げた魚に三、四匹反応があった。鉢（メバチ）、黄肌（キハダ）、黒皮（クロカワカジキ）はパスしたが黒皮小1が駄目。サンマカジキ二〇本ばかり三〇〇から一五〇カウント出るので、船に置き、再三調べる。調べた結果はついに不良なる。たくさん見学者だった。新聞記者達が多く、うるさくてやれん。八時、半分降ろして止め、明日揚げることにした。今日の水揚数四四〇〇メ（貫）余り、値が安い。安いといつても近頃にな

いい良い値だそう。夕方ごろ厚生省から何者が来て水揚禁止との事。主にハッチに封印した。在中の魚に放射反応ありとみなした。明日魚を捨てに又海に向う事だろう。

九日 水揚禁止となり八時に浦賀に回港する。アメリカ側より検査に来て、放射能の

出た魚を調べた。結果は良いそうである。食べてもさしつかえないといっている。Pm 一一時頃浦賀発沖へ。

一〇日 水産庁から来たのが貫々を一本一本見るというのである。規定の一八〇カイリ迄達しないが、厚生省から来る検査員が船酔いで寝たきりで飯も食わず、丘に降りたいそうなので、話し合いの結果、一〇〇カイリの所で挑魚す。貫数を一五〇〇貫余り多くする。三時三〇分挑魚スタンバイ、四時より始めた。なるだけ時間を長くかけ二〇〇〇貫たらず貫数三〇〇〇貫強にし、二時間余りかかった。終わって依りブリッジで検査員達と雑談す。

\* 本人は一九五五年八月より結核療養のため休業し、五七年秋に復帰、五九年一月の航海では体調がすぐれず、三月の航海では、他の乗組員の体調も悪かったとの記載がある。マーシャル諸島の核実験は五八年八月で終了したが、環境の汚染などが続いていた疑いもある。

【資料集は展示館で販売中】



連載④

# 晴れた日に 雨の日に

—第五福竜丸とともに—

山村茂雄

ですか(笑)

◇いや五氏アピールはそんなことはないはずですよ。岩波書店の地下室で……。

◇それは覚えていますが、何度も集まってやらなかった。当然のことだから。

◇集まったのは一度です。

◇古在さんは五氏には入っていないんですか。

◇会議には全部出ておられましたよ。

◇それが七七年二月二日に発表される。

◇社会的に、いちばん大きいのは五氏アピールですね。(編注)五氏とは上代たの、中野好夫、藤井日達、三宅泰雄、吉野源三郎)

◇その五氏アピールで、私はまたこうしてこの運動のなかに加わったわけですが。

五氏アピールというのはもう当然のことですから、そんなにみんなが集まって案文つくるのに苦心したとか……。

◇大いに苦心したじゃない

集まるうということになるわけですね。——しかし、なに

が開かれることはない(のだろうか)という状況のなかで、

森滝さん(原水禁)、草野さん(原水協)の合意(五・一九合意文書)が出る。

◇最後の調印は岩波で……。

\*

紹介したのは、一九八〇年に刊行された、吉田嘉清著『わ

が戦後行動——いま原水爆禁止は』が収録している、中野

好夫、古在由重、草野信男三氏による著者も加わっての座談会の発言です(一部要約)。

発言者の名があげられていないのは発言者に校正刷りを見てもらう余裕がなかったことによると編者が記していま

す。発言を読んでいくと、五氏アピール「広島・長崎ア

ピール・被ばくの実相究明のための国際シンポジウムを前にして」の起草者が吉野源三

郎さんであること、背景説明と言われる、別紙「核廃絶を

めざす運動とその展望」は中野さんか古在さんが起草したことがわかります。座談会では、五・一九合意を受けての

統一実行委員会結成に至る経過や、エピソードも語られています。

世話人会が日青協、地婦連からの申入れを受けたとき

地婦連の田中里子さんが「私たちも以前の分裂では退いたけれど、今度は加わる以上はちよつとやそつとでは退かぬ」と言ったこと、六月一三日の統一実行委員会結成会議

に出席した地婦連会長山高しげりさんの発言にふれ、委員会の状況を次のように紹介しています。

◇山高さんは、かつて運動が分裂したときに私たちは出ていったが、今考えると間違

いだった、との反省を込めて今度は絶対出ていかないと

いう決意を述べられました。それがいまでも統一の一つの大きな支えになっています。

山高さんは、この年の二月に亡くなり、大友よふさんが二代会長を継がれました。

\*

同年六月七日に第五福竜丸展示館開館一周年の集会が開かれました。集会へ寄せた美濃部都知事のメッセージは、

次のように述べたのでした。

「思うに、私たち日本人民

ほど原水爆を心から憎み、怒り、その廃棄を声高く訴える

資格のある民族は、他のいかなる国にもないのでありま

す。(中略)そういう私たちが、今年は一つだけ、久保山さんに報告できることを持てそうです。それは、かねてから私たちの強い願望であった原水

爆禁止運動の統一が実現されるということですよ」

\*

吉野さん(一八九九年生)、古在さん(一九〇一年生)、中野さん(一九〇三年生)三氏の問題把握の連携とつながり、トライアングルのよ

うに響きあう信頼と友情の深さを思います。吉野さんが亡くなるのは一九八一年五月、その翌年から中野好夫さ

んの、静岡の平和行進や焼津での久保山さん追悼の募参行動などへの参加が見られるようになるのです。

\*

◆写真は一九七七年世界大会ポスター、杉浦康平デザイン。統一の方向がシンプルに表現されています。

(第五福竜丸平和協会顧問)

# 大江健三郎さんと大石又七さんが展示館で対談

5月9日、作家の大江健三郎さんと第五福竜丸元乗組員の大石又七さんの対談がおこなわれ、NHKにより収録されました。

初めて来館された大江さんは、大石さんの案内で見学、水爆の爆発のときの様子、死の灰の降ってきた模様や身体の異常などについて、パネルや展示資料に見入り、説明にうなずきながら熱心に見てまわりました。対談の様子は6月下旬か7月初めに放送予定です。(朝日新聞掲載の「定義集」を転載します。)

15 文化 14版 2011年(平成23年)3月15日 火曜日 第1415号

## 文化

### 定義集

大江健三郎



十九歳の春、駒場の教室で基礎フランス語の最初の授業があり、柿色の硬紙の動詞変化表を受け取りました。完全に覚えれば、秋の学期のフロベールの短編を読む教室に出ることが出来る。しかし、完全に？

帰り道、正門脇でピキニ環礁の水爆実験を批判する立て看板を背にした演説を聞き、被爆した年少者のひとり父親の死で新制中学を中退した人だと知って、自分の境遇と遠くないのにドキリとしました。

夜の海が夕焼け色に染まるのも、それから轟音がして、二時間後白い灰が降ってくるのも、その若者の脳で経験したように感じ、できれば病院を見舞って直接話を聞きたい、と思いましたが。しかし電車に乗ると、柿色の本に熱中したのです。

ソポリの学生生活で、勉強も中途半端、三年後、大学新聞に書いた短編から作家の方向へ向かいました。が、そこに次の一節があります。

「僕らは大を殺すつもりだった

ろ、とあいまいな声で僕はいった。ところが殺されるのは僕らの方だ。女子学生が肩をしかめ、声だけ笑った。僕も疲れきって笑った。

大は殺されてぶっ倒れ、皮を剥がれる。僕らは殺されても歩きまわる。しかし、皮が剥がれていると、いっわけねと女子学生はいった。読み返して、ピキニ事件は自分の深いところに届いていた、と認識します。久保山さんの急性放射能症死を知り、不透明な(双方で意識して)そうした、日米政府の交渉を漠然と嫌悪し、被爆した船が沈められようとしたら、夢の島に乗せられてい

のが見つかったり……時を置いての報道に接するたび、いつもあの年少の船員のことを思い出しました。

……水爆の本当の怖さは、爆発もさることながら、同時に作り出される大量の放射能だった。水爆の破壊力と見えない放射能の恐ろしさを知った世界の識者たちは、人類の破壊を予感し、危機感をのこらせた。

「死の灰」に、地球にはないはずのウラン三七を検出した日本人の科学者たちが、アメリカ軍の秘密主義の壁を(それはピキニで実験された、威力を徹底的に強化している水

も離れていたのに、真っ白な「死の灰」は船上に雪のように降り注ぎ、デッキの上に足跡をつけた。不審に思って持ち帰った灰の中には、強力な放射能とアメリカ軍の最高軍事機密である水素爆弾の構造までが含まれていた。(中略)

……水爆の本当の怖さは、爆発もさることながら、同時に作り出される大量の放射能だった。水爆の破壊力と見えない放射能の恐ろしさを知った世界の識者たちは、人類の破壊を予感し、危機感をのこらせた。

「死の灰」に、地球にはないはずのウラン三七を検出した日本人の科学者たちが、アメリカ軍の秘密主義の壁を(それはピキニで実験された、威力を徹底的に強化している水

## 【水爆経験を語り続けている人】 抑止論の欺瞞、明確にあばく



絵・福田 美蘭

考え方の転換を、世界の指導者(もと指導者)たちが言い始めた時、日本の指導者がなぜ、この種の退向を示すことになったのか? じつはこの国で「抑止力」妄信が反省されることはなかったのではないかと?

「抑止力」、deter, 相手をおどかして引きがらせる、という動詞からの言葉が、日本語ではその暴力的な語感を、理性的で安定性のあるものに置きかえられている。

「抑止力」が水爆によって世界を破壊する規模になった時、最初の実験がすでに、矛盾と危険とをさらけだしてしまっていた。その転換点が第五福竜丸によって示された、とあの信頼できるラルフ・ラップは書いています。そして大石さんは水爆を経験した人として、この原理的な、かつ篤実な証言を続けていられるのです。それは、原子力発電所への警告をふくみます。

その影響力は、大石さんが作られた第五福竜丸の模型を手がかりに次の世代にひろがっています。ロングラップ島で見棄てられていた老人に、勇気のある人だ、といわせる国際性をももたらしています。夢の島公園の都立第五福竜丸展示館は時間的、空間的にじつに大きい場所であり続けるでしょう。ただ私らがそこを忘れなければ、もう五十年も遅れましたが、私は大石さんの話を聞きにまいります。

(作家)

私が、大石さんの本と、出積される世界的な水準のテレビ記録の再見を始めたのは、沖繩で前首相が「抑止力」を学んで考えをあらためたといい、新首相がためらいなく「核の傘」の必要性を主張した、昨年の夏からです。「抑止力」信仰に対する

◆「定義集」は4月から第3水曜日に移ります。

## 放射線って何？

### 市民講座開催のお知らせ

ビキニ事件・第五福竜丸の被災は、市民の日常に放射線の被ばくの影響をひろげました。春の企画展（3めに紹介）の関連イベントとして、連続講座「ヒトと地球と放射線」を開催します。6月11、18、25日の3回、時間は午後4時30分より。資料代500円です。

◎6月11日（土）

<放射線ってなんだ？>

講師 崎山比早子（医師・高木学校スタッフ・元放射線医学総合研究所員）

◎6月18日（土）

<第五福竜丸からみえてきた

放射線とヒトのつきあい>

講師 安斎育郎（放射線防護学・立命館大学名誉教授、安斎科学・平和事務所主宰）

◎6月25日（土）

<第五福竜丸と放射能の雨

～科学ドキュメンタリー映画

『世界は恐怖する』を観る>

講師 奥山修平（科学技術史・中央大学教員・協会理事）

\* 11日、18日は記録映画「死の灰」（新理研映画 24分）を上映します。

【詳細は、後日ホームページ等でお知らせします。要予約 電話 03(3521) 8494 FAX03 (3521) 2900 URL <http://d5f.org> からEメールでも受付】

### 展示館前から平和行進が出発

「歩こう～核兵器のない世界へ」と訴え、広島へ向けて歩く、国民平和大行進が、5月6日第五福竜丸展示館前を出発しました。

爽やかな五月晴れのなか、社会科見学の中学生、高校生にまじり、たくさんの方が館内を見学しました。

第五福竜丸平和協会から川崎昭一郎代表理事が挨拶し、現在福島第一原発

の事故をめぐるのは、一部の関係者や原子力安全保安院などのみが発言しているが、57年前のビキニ事件当時は、多くの科学者や市民が声をあげたことを紹介し、あらためて核兵器のない世界へむけて、平和の歩みを激励しました。



### 展示館日誌

東日本大震災の影響で、今春は修学旅行の団体見学予約が相次いでキャンセル・延期となり、昨年新型インフルエンザを上回る事態です。

4月、5月のキャンセルは8割近くにおよび、約5000人の来館者減となる見込みです。

一方、夢の島公園にも家族連れや市民の訪問が増えています。とくに展示館の来館者のなかには第五福竜丸被ばく当時のことを知りたいと訪れる人も多く熱心に見学する姿も見受けられます。

### <来館者の声から>

◇福島の原発事故をきっかけに放射能について考えはじめました。展示館が伝えていることを、もっと多くの人に知ってもらいたいです。（36歳・女）

◇子どもの頃、親と一緒に第五福竜丸を見にきたことを急に思い出し、子どもに放射能のおそろしさを感じてほしくてきました。（42歳・女）

◇すごくれきしがありました。いまじしんで、げんぱつがばくはつしてるとニュースがやっていて、おなじくらいこわいんだと思いました。（9歳・

男）

◇すごいタイミングで来てしまったと思いました。「人体には影響はない」という当時の新聞記事の見出しに、笑っていいのか悪いのか複雑な思いになってしまいました。（30歳・女）

### アート展<Expose 死の灰>

東京・世田谷区にあるアートスペース KEN（三軒茶屋）で、「死の灰」をテーマにしたアート展が4月22日から開かれ、週末は関連したイベントが開催されました。

この企画は、粟津ケンさんによるプロデュースで、<expose 死の灰>と銘打たれ（制作三宅文子）、第五福竜丸展示館から「死の灰」を提供、写真家・新井卓のダゲレオタイプ（銀板写真）とデザイナー・上浦智宏のシルクスクリーン作品「死の灰」が展示されています。

会期中にはさまざまなパフォーマンスも取り組まれ、オープニングトークには安田和也事務局長（4月22日）、市田真理学芸員（同23日）の講演やトーク、朗読ワークショップ、林光さんのピアノコンサート、和田誠さんのトーク、福竜丸元乗組員・大石又七さんの証言、山村茂雄さん（協会顧問）によるレクチャーなど展開されました。



大石又七さんから事件当時のようすや今の気持ちを聞く、高校生の堺野夏美さん